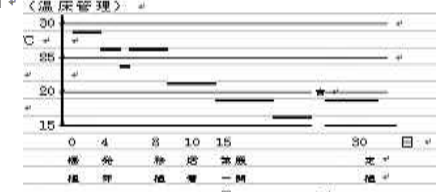
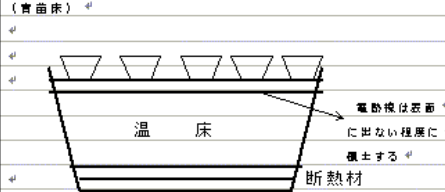
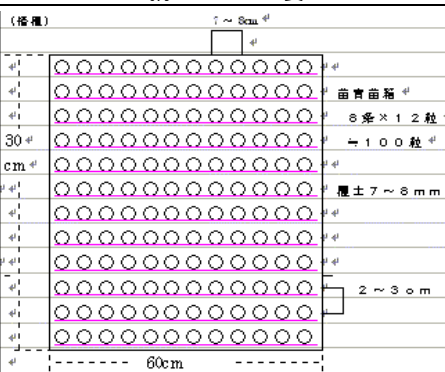


アムスメロン

月	旬	作型	主要作業	栽培の要点	摘	要
1	1	1	床土作り	<p>は種</p> <p>床土の準備・・・10a当り1m3 土:完熟たい肥=1:1(有機物含有量が少ない場合にはモミガラくん炭を20~30%加える。) 肥料成分は床土1m3に対し、N、P、Kをそれぞれ300g、苦土石灰を4kg施す。 床土の消毒は消毒剤等で早めに行いガス抜きを十分に行う。 は種床:10a当り2m2(水稻育苗箱の場合1箱100粒まく) は種量:10a当り1,100粒 発芽適温は28~30 なので床温を十分上げてからは種する。 乾いた種子を発芽床にそのままは種し、ジョロで均一に灌水する。 発芽後はかん水を控え、急激な日射や冷気に注意 発芽後床温は26 に保ち、鉢上げまで23 に保つ。 鉢上げ 移植床:10a当り25~30m² 4号鉢に床土を入れてからあらかじめ25 位に床温を保つ。 移植2~3日前床土にかん水を行い前日は控える。 は種後7日位で葉が完全に展開して鉢上げする。 活着後、床温はある程度下げながら18 は確保する。 かん水は控えめにして直接苗にかけない。 育苗日数は30日程度で本葉3枚程度の若苗を定植 定植6~7日前から徐々に夜温を下げ、本圃の夜温より1~2 下げる。 定植準備および定植 基肥は前作により肥料が残っているので土壌分析を参考にする。 高うねとし通気排水に努めてビニール被覆を行う。 定植前遅くとも15日前にはマルチをかけ地温を上げる。(最低地温17) ハウスの周囲はできるだけ排水溝を深く掘っておく。 定植は寒波がこない事を確認して無風晴天の日を選び、午前中には終える。 かん水は定植当日は行わず2~4日後温暖な午前中行う。</p>		
		1	定植予定日の1ヶ月前には種育苗			
		2	荒起こし 基肥施用 定植準備			
		3	定植			
		4	整枝 わき芽かぎ 開花 交配 着果	<p>温度管理</p> <p>定植後活着まで最低地温17~18 、日中最高気温30 活着後開花までの夜温10~12 (最低8) 交配着果期までの夜温18~20 (最低夜温15) 日中30 以上になれば換気する。 外気温の最低が12 以上となったら夜間もある程度換気してほしい。 水管理のポイント 定植から活着まで少量かん水 活着から開花・着果までかん水控え目 果実肥大期は多かん水 ネット最盛期からネット完了まで適宜かん水 ネット完成から収穫まで葉がしおれない程度少量かん水 溝かん水はしない。 整枝および着果 支柱は、中トンネル除去後すぐ立てる。(支柱の長さ120cm) 十分活着してから4枚残して摘心する。揃った子づるを2本残して他は除去する。 子づるは2本仕立てとして1株4個着果とする。 孫づるは10節まで早めに除去し11~15節に2個着果させる。 11~15節は葉を2枚残して摘心し、16節以上は1枚残して摘心する 子づるは17~18枚展開した頃23~25節で摘心する。 ミツバチ交配(開花2日前から10日間程度ハウスに搬入) 1株4果残しピンポン玉大で早めに摘果する。 ソフトボール大の時に台座を敷き、その時花弁も除去しておく。 急性苦土欠乏症の回避のため苦土入りの葉面散布剤の散布を行う。(例:メリットM・葉面マグなど)また切戻し等、強整枝はしない。</p>		
		5	台座敷き			
		6	収穫			



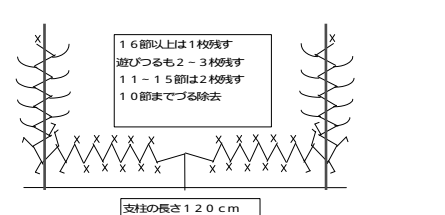
(栽植距離)

	畦幅	株間	10aあたり
ハウス	2.7m	40cm	925本 2本仕立 半立休
大型トンネル	2.5m	45cm	880本 // 地這い

(施肥例)

肥料名	元肥 (kg)	追肥 (kg)	成分量		
			N	P	K
完熟たい肥	2,000				
ミネリンパワー	100			7	
ホームー2号(6-8-4)	120				
CDU(15-15-15)	40		6	6	
液肥(10-0-2)		40			

元肥成分量 N13.2 P22.6 K10.8



ネット発生促進
 通風をよくする。
 高温管理を避ける
 収穫の目安
 ・開花後60日
 ・結果後の葉がかる。
 ・果梗の周辺に2mm以上の離層
 ・糖度14度以上